地域関係者が一体となったニホンジカ被害防止の取組

近畿中国森林管理局　箕面森林ふれあい推進センター
上席自然再生指導官　才本　隆司

１　課題を取り上げた背景

箕面森林ふれあい推進センターが里山再生や森林環境教育に取り組んでいる大阪府箕面市の箕面国有林は、都市近郊にありながら、多様な生態系が維持された豊かな森林として市民に親しまれています。長年にわたって森林生態系の保全活動に取り組んでいる多くの市民団体があり、活動も活発です。

このような中、増えすぎたシカによる森林食害は本国有林にも及び、直接的な森林生態系や林業への影響の外に、シカの採食により下層植生が劣化し、降雨時の土壌流出や土砂災害等のリスクも高まり、山麓に住む人の暮らしの安心安全に与える影響が懸念されています。

この、森林に深刻な被害を与えているシカの被害を防ぐため、地域の市民等から効果的な取組の実施が求められていました。

２　取組の経過

箕面国有林では、シカ被害対策を効果的に行うため、平成25年、市民団体や研究機関、当センターなど行政機関等で構成する「明治の森箕面自然休養林管理運営協議会（事務局：NPO 法人みのお山麓保全委員会）」において、基本的な４つの取組方針を決め、一体となって対策に取り組む体制がスタートしました。

○個体数管理（捕獲）

増えすぎたシカの生息数を適正に管理する根本的な対策。

当センターが、箕面市が行う民有林の有害鳥獣被害対策の取組と連携して実施。

○防護柵の設置

植生を守るための緊急避難的対策。

協議会により保全上重要な箇所にパッチディフェンスを設置。柵内外の植生の違いを市民に啓発。

○モニタリング

対策の管理目標として活用するため、市民団体、研究機関、行政が連携して実施。

市民団体は、植物に関する知識を活かして植生被害などを調査。研究機関や京都大阪森林管理事務所は、生息状況把握のため糞塊調査等を行うとともに、市民が行う調査に技術協力。当センターは、効果的な捕獲技術を開発するため、自動撮影カメラによる行動調査及び首用くくり罠の試行等を実施。

首用くくり罠の試行

○市民への広報･啓発

野生鳥獣との共生を図るための捕獲の必要性を市民に啓発。

研究フォーラムにおいて、大阪府の研究機関から森林被害状況について報告。当センターから捕獲事業実施状況について報告。

市民フォーラム

３　実行結果

協議会を構成する市民団体、研究機関、行政がそれぞれの得意分野を活かして、責任を持って対策を実施し効果を上げています。

４　考察

立場の違う様々な主体が、一体となって対策に取り組むことにより、対策の効果が有効に発揮され、将来にわたる継続性が期待されています。